

彩り豊かで、華やかな大村寿司。  
その歴史をたどれば、戦国時代  
までさかのぼる。

大村地域は中世から江戸時代を経て  
明治維新に至るまで、ほぼ絶えること  
なく大村氏によって治められた土地  
で、まちを歩けば今でも城下町の風情  
が感じられる。

一四七四年、大村家当主・大村純伊  
は、島原の有馬氏に敗北し、大村の地  
を追われてしまう。しかしその七年  
後、純伊は援軍を得て見事領土を奪還  
した。領民たちはこの勝利を喜び、当  
主や将兵たちを労おうと、食事の準備  
に取り掛かったものの、急なことで膳  
の用意ができない。そこで「もろぶた  
(長方形の浅い木箱)」に、ご飯を敷き  
詰め、その上に野菜や魚などのおかず  
を散らして押し寿司にして出した。こ  
れが大村寿司のルーツと伝わってい  
る。また、喜んだ将兵たちが脇差で四  
角に切って食べたことから「角寿司」  
ともいわれるという。

大村寿司は干しシイタケやゴボウ、  
かんぴょう、蒲鉾を煮付けたものな  
ど、数種類の具材を酢飯で挟んで錦糸  
卵を散らし、ふたをして押さえる。手  
間がかかる上に、今ではスーパーなど  
にも並んでいることから買って食べる  
人も多いが、お祝い事や花見などの時  
には必ず作るという家庭も。昔は大村

喜びに満ちた

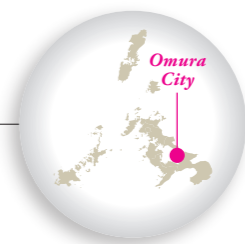
戦勝祝いの  
甘い寿司



# 大村寿司

大村市

Nagasaki's  
Local  
Cuisine



の家には代々使っているもろぶたや、  
特別にあつらえた枠があり、親から子  
へ作り方が伝えられていたという。  
純伊が大村の領土を奪還した際、領  
民たちの喜びようは実に大きく、祝い  
の踊りを披露したという。その三つの  
踊り「沖田踊」「寿古踊」「黒丸踊」は

国指定重要無形民俗文化財として今に  
受け継がれている。  
大村寿司は、ほんのり甘い味付けが  
特徴で、これこそ砂糖文化が花開いた  
長崎ならではの味。戦勝祝いの甘い寿  
司を食べれば、領民たちの弾けるような  
喜びが伝わってくるようだ。



写真上／大村氏の居城・玖島城跡は、  
大村公園として市民に親しまれている。  
桜が咲き誇る春は格別。  
下／華やかな大村寿司は  
お祝いの席にふさわしい。

